

被災の戦没者慰霊碑 手つかず

東日本大震災では、戦没者を祀る慰霊碑も被害を受けた。福島県内でも地震や津波で多くの碑が倒壊したり流失。例年、8月から11月に営まれる慰霊祭が中止になる地区もある。そんな中、海外の慰霊碑整備に携わる市民団体が、同県遺族会の慰霊碑修復支援に動き始めた。(小倉貞俊)

福島 80基損壊

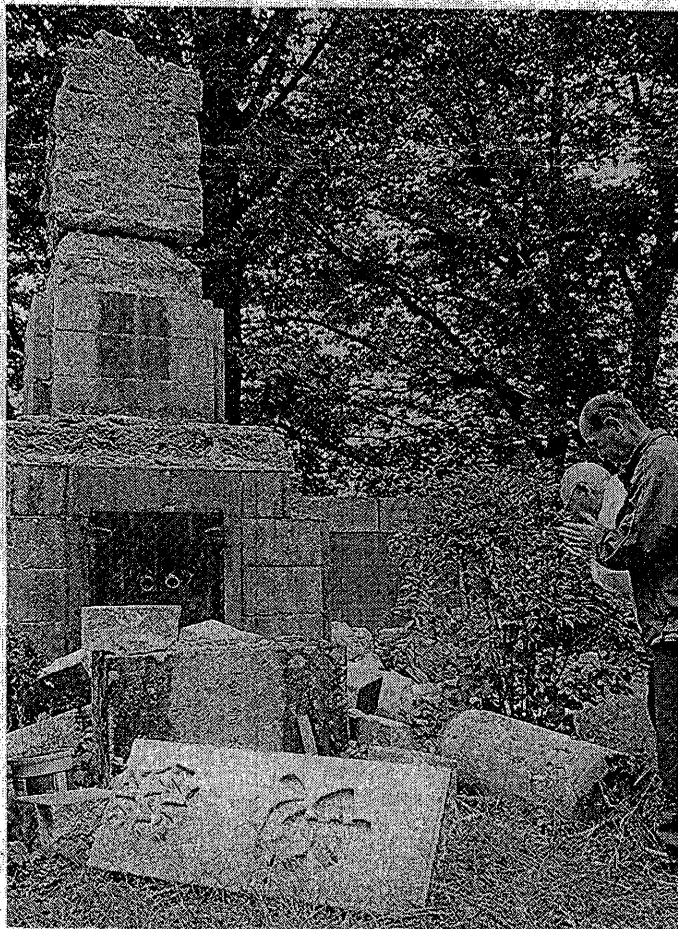
福島県大玉村大山の農村地帯。道路沿いにそびえる戦没者慰霊碑の石塔は中ほどから折れ、周囲には破片が散らばる。遺影を飾った葎は外壁が崩れ、地震の爪痕の深さを物語っていた。
「震災直後に駆けつけたとき、目を疑いました。戦死した兄をはじめ、私たちのために犠牲になった霊に申し訳ない気持ちです」。この地区の戦没者遺族をつくる「大山遺族会」の角田力雄さん

「戦史検定」で修復費支援

「心はつなげられた。さらなる倒壊の危険性があるため、同会はロープを張って碑周辺への立ち入りを規制。終戦記念日の八月十五日に開いている慰霊祭を延期にした。修復費用は百万円以上かかる見込みで、調達のめどはついていない。

市民団体「遺族会」に収益寄付

碑の被害状況はどうか。同県遺族会(会員約一万二千人)によると、同県出身の戦没者六万六千三百四十人は地区ごとに祀られており、慰霊碑は計五百二十二基ある。このうち津波で四十七基が倒壊し、津波で三十三基が流失したという。



「ピースの追跡」

東日本大震災で崩れた戦没者慰霊碑に手を合わせる遺族＝19日、福島県大玉村

倒壊した碑のうち修復費が五十万円未満のものは、自治体と県遺族会で補助を出し、各地区で直すことになったものの修復費が高額な約二十基については「手が回らない状況」(県遺族会の担当)という。

「ガダルカナル島でも四千人以上の福島県出身者が亡くなっている。震災で甚大な被害を受けた福島の方々を、まず先に支援すべきではないかと考えた」と同協会。福島県内の慰霊碑修復支援を県遺族会に提案したという。

「第二回検定は十一月二十日、新宿区の日本青年館で開催される。試験は初級コースが二千八百円、中上級コースが五千五百円。同協会は「歴史を学ぶと同時に、被災地の支援にもつながる。収益金は福島県遺族会に寄付する」としている。

検定の申し込みは十月三十一日まで。問い合わせは同協会＝電03(6268)9939＝。

しのべたのが市民団体の揚げ。日本の戦史や社会「戦史検定協会」(東京情勢、世相などの知識を都)。同協会は、海外の競い合う検定試験を実施旧日本軍戦没者慰霊や遺骨収集に取り組むNPO。昨年十一月の第一回検定試験には、全国から約三百人が参加した。今年三月の震災発生を受け、